



左) 市役所通りを笑顔でGo!

上) アメリカやフィリピンの仲間と一緒に

きらっとまつりに参加しました!

10月12日(日)、市民まつり「習志野きらっと2025」が、市役所敷地内と市役所通りで開催され、NIAも参加しました。

◆午後に行われた、祭りのハイライト・サンバパレードには、文化交流部会のメンバーを中心に約13名が参加。揃いの赤いハッピに、手にはオレンジや黄色のポンポン。NIAのサンバを20年近く指導してくださっている竹内一江先生のもと、サンバのリズムにのって大通りいっぱい練り歩きました。

「楽しかった!」「また来年も!」笑顔いっぱいの参加者たちでした。

◆一方、市役所敷地内のNIAのテントにおいては、国際交流部会、NI-Youth、そして日本語教室部会「ふれあい掲示板NEWS」の各メンバーが、クイズウォークラリーやクイズを中心に、活動のアピールをそれぞれ行ないました。

テントには家族連れや子どもたちがひっきりなし。クイズやゲームなどの参加者だけでも、合計330名以上の盛況でした。「タスカルーサって、初めて聞いた!」「日本語って、外国の人には難しいのかなあ?」たくさんの市民の方々とふれあえた一日でした。(報告:広報部会 佐藤洋子)



左) 写真パネルやクイズを通して活動をアピール

下) NIAのテントには親子連れや子どもたちが次々と



在住外国人のための『生活ルールの話』

市民まつりの日には習志野市で生活する外国人のための講話も習志野市主催で開催されました。

習志野警察署からは自転車の乗り方や犯罪に巻き込まれないための話。そして市クリーン推進課からはゴミの出し方の話。特にリチウムイオン電池やペットボトルの捨て方は実際に体験させてみるなど、外国人に必要な生活のルールを分かり易く説明してくれました。参加者には自転車の2重ロックキーやエコバッグなども配布されました。(報告:事務局長 井澤修美)



警察の方のていねいな説明を熱心に聞く在住外国人の方々

にリチウムイオン電池やペットボトルの捨て方は実際に体験させてみるなど、外国人に必要な生活のルールを分かり易く説明してくれました。参加者には自転車の2重ロックキーやエコバッグなども配布されました。(報告:事務局長 井澤修美)



バスツアーで茨城県へGo！！

10月21日、フィリピン、ボリビア、中国、そして日本、の29名が参加しました。「NIAの会長さんと初めてお話ししました」「新しい友だちができた！」など、ふれあいっぱいの楽しい秋の一日をすごしました。



左) 巨大な牛久大仏の前で
上) 宇宙センターの展示コーナー・スペースドーム

初めての牛久大仏、初めての筑波宇宙センター。
仲間と巡って、感動倍増！

◆ロヨラ・コリーン・デアラグトン (日本語教室部会)

2025年10月21日に行われたNIAのバス旅行は、私の日本での思い出に新たな1ページを加えました。約3年間の滞在で、茨城県、特にギネス世界記録を持つ牛久大仏と筑波宇宙センターを訪れるのは初めてでした。これらの場所は素晴らしかったです。テレビでしか見たことのない場所を実際に訪れ、体験できるとは思ってもいませんでした。NIAのグループと一緒に訪れることができ本当に光栄でした。ツアー、食事、そして仲間たちとの時間、すべてが良かったです。素晴らしい体験をさせてくれたNIAに感謝します。

◆ラペラ・チェンキー・パタタグ (日本語教室部会)

まず初めに茨城県への素晴らしい旅行を企画していただいたNIAに感謝申し上げます。7年間日本に住んでいましたが、初めてこのような旅行を経験できて本当に嬉しいです。牛久大仏は素晴らしかったです。本当にリラックスできて、リフレッシュできる場所でした。その後、ビュッフェレストランで食事をし、とても良かったです。次にJAXA (宇宙航空研究開発機構)に行きました。あの場所に入ることができて本当に幸運でした。テレビでしか見たことがなかったもので、信じられません。忘れられない経験になりました。

学習者もボランティアも一緒にツアーを楽しみました

ラペラさんとロヨラさんはフィリピン出身のご夫婦。NIAの日本語教室で、そろって学んでいます。先生は日本語ボランティアの神鳥文子さん。バスツアーも3人で参加、今回の2人の原稿もサポートしてくださいました。「奥さんのロヨラさんは最初ひらがなやカタカナを読めなかったですが、今はずいぶん読めるようになりました。ラペラさんは日本に長いこともあり、漢字大好き(笑)。とても仲がよく、勉強熱心。私も楽しく学習のお手伝いをさせていただいています」(神鳥さん)。



手前から
ラペラさん、
ロヨラさん、
神鳥さん。
おいしいラン
チもツアーの
楽しみ

「あすなろ会華道体験教室」をおこないました

日本語教室部会「ふれあい掲示板NEWS」より

9月29日(月)と10月1日(水)に、日本の伝統文化を学ぶ「あすなろ会」華道体験教室を開きました。二日間で、学習者19名、ボランティア5名が参加しました。講師に教えてもらいながら、あざやかな花のアレンジを楽しんでいました。



元気なひまわりの月曜教室



水曜教室はピンクのガーベラ

日本語教室部会の「世界を知ろうサポートプラン」が「わんぱくまつり」に参加しました

立岡成子（日本語教室部会）



日本語学習者、ボランティアの皆さん

11月15日（土）津田沼小学校の「わんぱくまつり」に参加しました。7か国の学習者さん（フィリピン、ネパール、韓国、インドネシア、中国、ブラジル、ベトナム）とボランティアの皆さんが集まり、各ブースで小学生たちと交流しました。学習者さんたちは、これまで学んだ日本語で自国の文化を紹介し、子どもたちは、覚えてたの言葉で面白そうに挨拶をしたりしていました。

ベトナムや韓国のめずらしい帽子をかぶってみたり、中国のブースで書写（篆書体）を体験したり、おもちゃのコーナーでロシアのマトリョーシカに夢中になったり。皆、目を輝かせていたのが印象的でした。又、異なる

国の学習者さん同士が交流する場面も見られて良かったです。

入場者が増えてきた頃、ネパールのアンザンくんが国歌を歌ってくれ、民族衣装をまとった男性3人衆も唱和して大いに盛り上がりました。

カラフルな国旗や各国の衣装、美しい写真や装飾品に囲まれて、皆が笑顔で一つになり、この日は小学校の一教室に多文化共生の小さな花が一つ咲いたように感じられました。参加されたすべての皆さん、沢山の思い出を有難うございました。



小学生や保護者の方々など、たくさんの人々が来訪



各国の珍しい楽器やおもちゃなども展示されました

サモア大使館を訪問しました

9月12日（金）にサモア大使館の訪問が実現しました。当日は、特命全権大使のファアラヴァウ・ペリナ・シラ・ツアラウレイ様をはじめ大使館職員の皆様に温かく迎えていただきました。内容もサモアについてのプレゼンテーション、民族舞踊体験、サモア料理の試食などどれも楽しく、多くの学びがあるものでした。一等書記官であるロドニー様が中心に進めてくださいましたが、ユーモアを交えながら、わかりやすく説明していただきました。

日本との友好関係は長く深いものであること、サモアの皆さんは自国の文化をとても大切にしていること、社会や家庭の中の男女の役割の考え方など、驚くことが多く勉強になりました。

大使からは「皆さんが訪問を楽しんでくれてうれしく思います。いつの日かサモアを訪れ、サモアの伝統的な方法で作った料理を食べられるような機会があればと願っております」というメッセージをいただきました。

大使をはじめ大使館の皆様のお陰でとても貴重な時間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



後列中央がファアラヴァウ・ペリナ・シラ・ツアラウレイ大使、後列左がロドニー一等書記官

吉村会長のCoffee Break

第8回 トルコ編第二弾～ボスポラス海峡でボラれた話～

今回は私のワイフの体験談です。

私が第5回世界水フォーラム会議に参加している間、ワイフは「ボスポラス海峡のクルーズ船で観光をしたい」との事でホテルのコンシェルジュから聞いた船着場に向かった。教えられた船を探していると「船に乗るなら、こっち」と、案内人らしき人から声をかけられ、それについて行った。乗船チケット売り場で乗船代30トルコリラ(以下TLと略す)を支払い乗船した。コンシェルジュのお勧めにしては随分貧弱でローカルな船と感じたが船は出航した。

船内での案内放送も無く、BGMもなく、ただひたすらボスポラス海峡を進んだ。まもなく一緒に乗船したイタリア人女性のボスらしき人から声をかけられ、お互いに簡単な自己紹介をした。そして「ケイコ、乗船代いくらだった？」と訊かれたので「30TL」と答えたら、とてもびっくりされ、「私達は10TLよ!」と。それを聞いたワイフは「日本人女性、甘く見られた、絶対に代金を取り戻さねば??」。

彼女の怒りにスイッチが入り、下船後に返金してもらうにはなんと言えよいかと、もう、その事だけで頭がいっぱいで、景色を楽しむ余裕は無かったようだ。何故ならばワイフはあまり英語が得意ではないので・・・。

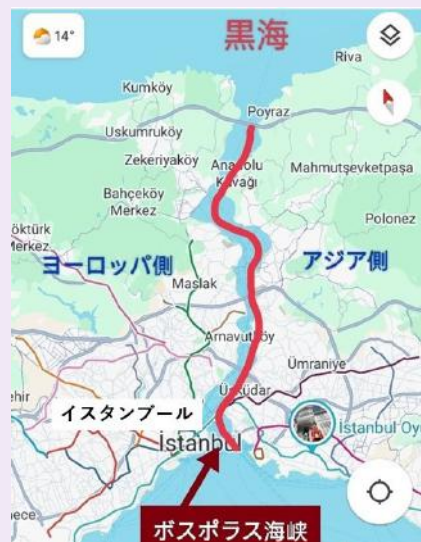
下船後イタリア人のボスに食事を誘われたが、取り戻す代金の事で頭が一杯で、丁寧にお断りをお断りし、乗船場に向かった。ワイフは「乗船するの?」と聞いて来た男性を見つ

け、「今、乗船して来たけど他の人は10TLなのに「なぜ私は30TLだったの?今すぐ差額を返して??」と。男性は「ちょっと待って」、と言って何処かに電話をして10TLを返金してくれた。ワイフは「あと10TLなんだけどな」と不満に思ったが、「まっ良いか、残りは勉強代」と納得したが、もし私の英語がパーフェクトなら差額・全額取り戻せたのにと悔しがっていた。

私はワイフの話をヒヤヒヤして聞いていたが、ワイフ曰く「各国の首脳が出席する国際会議に向け、トルコ中のポリスが集まったのか」と思うくらい会場や船着き場の周りはポリスだらけだったので、何かあったら大声で騒げば必ずポリスが助けてくれると思った・・・。

私はボスポラス海峡に浮かんだワイフの確認に行く事にならずに良かった、と胸を撫でおろした。因みにコンシェルジュのお勧めの船は立派な客船だったと、後から聞いた。

(吉村和就/習志野市国際交流協会会長、国連テクニカルアドバイザー)



ボスポラス海峡地図

第2回日本語ボランティア研修会が開催されました

中村松男 (日本語教室部会)

今年度2回目の研修会が11月19日開催されました(参加者37名)。講師は全国各地で日本語教育人材育成の講師としてご活躍の吉田聖子先生です。テーマは『外国人施策の動向、文字と語彙の扱い方と子供を飽きさせないボランティア活動』でした。

盛沢山のテーマについて、グループ討議を交えながら、凝縮された説明と事例紹介、質問への丁寧な指導をしていただき、中身の濃い3時間半となりました。

(詳しくはホームページを)



アートコンテスト全米第3位を受賞(部門・年齢別)!

2025年タスカルーサ市桜まつりアートコンテストで中学生の部・第1位を受賞した、東邦中学校・杉本美奈さん。その作品「世界の樹」が、国際姉妹都市協会主催の全米規模の「2025ヤング・アーティスト&オーサーズ・ショーケース」において、クラシックアート・12~14歳部門で第3位に輝きました。杉本さんの創造的な作品が高く評価されました。

なお、2026年タスカルーサ市桜まつり俳句コンテストの出品も、現在募集中! 締切は1月中旬頃。詳しくは、事務局またはホームページへ。



杉本さんの作品「世界の樹」